

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経営企画課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	小笠原 美千代	内線 6230
小施策	26-7	雨水浸水対策の推進	評価 シート 作成者	菅原 宏文	内線 6231

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
近年の局地的集中豪雨による浸水防除のためにも、幹線水路の整備や面的整備を進める必要がある。また、既存施設の耐震化を進めるとともに、老朽施設の大規模な改築・更新を行う必要がある。		浸水状況の把握を行い、緊急性のある雨水幹線整備を重点的に実施することにより、浸水被害を解消し、市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
雨水排水施設		浸水被害を解消し、安全な水環境を確保している。
市民		市民の生命・財産が保護される。
都市		都市機能が確保される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析		
下水道雨水施設整備率(整備面積/雨水認可面積)	%	↗				評価を踏まえた取組の方向性 <ul style="list-style-type: none"> ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
当初値(H25)	60.2	R1目標値	61.4	R6目標値	62.8	
				・雨水施設整備率の増(61.9%→62.0%)	・未整備地区における雨水管整備が行われたことによる。	
実績値の推移: 当初値(H25) 60.2, H27 60.9, H28 61.6, H29 61.9, H30 62.0, R1目標値 61.4, R6目標値 62.8				・整備対象範囲が広く整備率の伸び幅が小さい。	・未整備地区は郊外が多く、整備に伴う管路延長が大きい。	
問題点				問題の要因分析	未整備地区の幹線整備と面整備を図る。 過去に浸水被害を受けた箇所の災害防止を図る。	